

成の意見が多く出される一方、高齢者を中心には疎化の進行への不安の声があり。

中学校について、統合賛成の意見が多く出される一方、地域活性化の進行への不安の声がある。

越喜来地区(57人)

統合先や統合後の校舎の選定についての意見が多く出された。統合後の通学手段などについてより具体的な資料の提示を求める要望がある。

綾里地区(61人)

中学校の統合はやむを得ないとする意見が多かった。統合後の通学手段の確保、統合に伴う不安全感を払拭するため、計画的な交流事業の実施を求める意見もあり。

日頃市地区(107人)

基本計画を支持する声が出される一方、統合後の通学路の安全性や、閉校に伴う地域活力の低下への不安の声あり。

いの質問あり。

なお、同地区については、市主催の説明会とは別に地区公民館が主催して地域の代表者の皆さんとの意見交換を実施中。

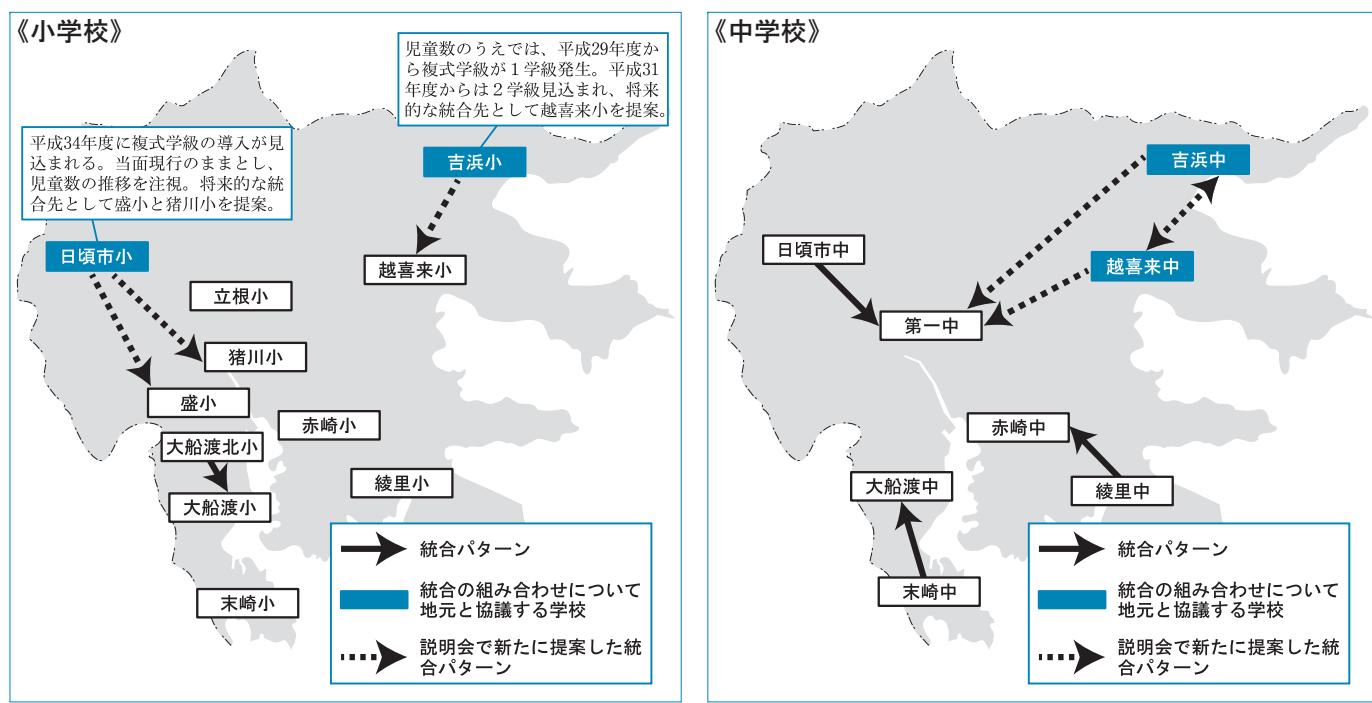


表1 平成29年度市内中学校部活動所属調査結果 《中総体まで(1~3学年)》

区分		第一	大船渡	末崎	赤崎	日頃市	綾里	越喜来	吉浜
運動系	男子競技	軟式野球	26(2)	18	14(1)	13	11(1)	19	17
	サッカー	33(2)	10		9				
	バレー ボール	21	2						
	バスケットボール	19	10	24					
	ソフトテニス	21	20		9		8	8	
	卓球	13	10	8				5	
	柔道	14	6						
	剣道			9					
女子競技	バレー ボール	12	12		11	2	12	4	13
	バスケットボール	25	14	13					
	ソフトテニス	23	21	21	13		15	11	
	卓球	30	17	3		12	7	8	
	バドミントン				12				
	柔道	5	5						
	剣道			5					
	男女混合	吹奏楽	32(27)	21(21)					
文化系	文化	50(29)	10(6)	1(0)	7(6)	4(1)	5(2)	6(5)	8(5)
	無所属	18(4)	2(1)					5(0)	

注:( )内は女子の人数

図1 具体的な学校統合の組み合わせ



(7) 広報大船渡 29.9.5(No. 1110)

▷問い合わせ=市役所 0192 3111

5月15日から8月8日にかけて、市内各地で一般住民、保護者（就学前施設、小・中学校）、地区役員（公民館長、地区公民館運営組織構成員など）それぞれを対象に、本年2月に策定した「大船渡市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画」の説明会を順次開催しました。

### 説明の流れ

各会場では、配布資料をもとに、はじめに少子化の進行に伴い、現行の学校数のままでは、今後、本市の小・中学校は、一部を除き1学年1学級で推移し、全体として一層小規模化が進行する見込みであることや、小規模校のメリット、デメリットに触れたがら、次に掲げるとおり、本市にとって望ましい学校規模（1学年あたりの学級数）や統合の進め方などについて説明を行いました。

今後、学校規模に関して、原則として、中学校はクラス替えが可能な各学年2学級以上。小学校は地域での見守りが大事な時期で、地域と一体の運営が望ましいことなどを考慮して各学年1

況をみながら、地区ごとに統合推進の可否について協議する組織を立ち上げ、地域の意形成に向けて鋭意取り組んでいきます。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

その後、具体的な統合の組み合わせ（図1）や、通学上の安全確保をはじめ学校統合に伴い配慮すべき事項などについて説明し、出席者の皆さんから意見を伺うとともに、質疑応答を行いました。

地区別の発言の傾向は、次のようにも、統合後の通学手段の確保や、統合に伴う児童生徒の不安や動搖を心配し、統合前の児童生徒の計画的な交流などを求める声も聞かれました。

地区別の発言の傾向は、次のとおりです。なお、（ ）内は延べ出席者数です。

- ・末崎地区(73人)
  - 賛否に対する意見は出されず、統合後の通学手段の確保、統合にあたって児童生徒の事前交流の内容につ
    - ほとんどなし。安全性の観点から、小学校統合後の校舎について大船渡北小を求める声が多くあります。
- ・大船渡地区(70人)
  - 賛否に対する意見は出されず、統合に異議を唱える声はありません。

### 統合案に慎重な意見も

これまで延べ500人を超える皆さんから、約200件にのぼるご意見、ご質問をいただきました。全体として、「基本計画を支持する」「少子化の進行からやむを得ない」とする意見が多く出される中、閉校に伴う地域活力の低下を見通しは不透明であること。また、平成34年度に複式学級導入が予測される日頃市小については、今後の児童数次第で、地域の皆さんと他校との統合に係る話し合いが避けられないと考えていること。

生徒数および学級数の減少に伴う部活動の選択格差の影響などを考慮し、中学校の統合を優先して進めることがあります。地区別の発言の傾向は、次のとおりです。なお、（ ）内は延べ出席者数です。

・大船渡地区(70人)
 

- 賛否に対する意見は出されず、統合に異議を唱える声はありません。

・末崎地区(73人)
 

- 賛否に対する意見は出されず、統合後の通学手段の確保、統合にあたって児童生徒の事前交流の内容につ
  - ほとんどなし。安全性の観点から、小学校統合後の校舎について大船渡北小を求める声が多くあります。

(6)